

# これからの都市計画・まちづくりについて

さぬき市では、

平成 17年3月に都市計画に関する「さぬき市都市計画マスタープラン」を策定し、都市づくりを進めてきました。

しかしながら、人口減少・少子高齢化社会を迎えたことや、高齢化に伴う社会保障費の増加が懸念され、それらに対応するための取り組みを進めていくことが急務となっております。



## 私たちのまちの「現状」

### ●人口減少、高齢化の更なる進行

- ・平成7年の58,390人をピークに人口減少が続いており、今後も継続的に人口が減少すると予測されています。
- ・また、年間100〜300人程度が継続的に市外へ流出しています。

### ●財政負担の増大

- ・過去に建設された公共施設等が大量に更新時期を迎える一方で、地方公共団体の財政は依然として厳しい状況にあります。
- ・人口減少等による公共施設等の利用需要の変化や市町村合併後の施設全体の最適化を図る必要性があります。

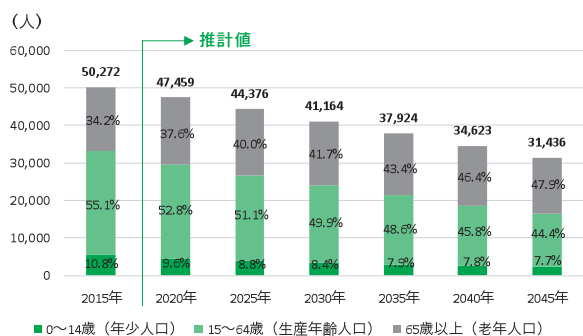
### ●持続可能な都市構造の構築が必要

- ・市街地のスポンジ化（市街地の人口密度の低下、空家増大、事業所数の減少等）、周辺への無秩序な拡大による行政負担の増大が懸念されます。
- ・公共施設等の機能重複（スポーツ・レクリエーション、保養、集会等）が見られます。

### ●災害等へ対応した安全な市街地の形成が必要

- ・古い木造住宅の密集市街地では、不燃化や避難路確保などの改善を図る必要があります。
- ・河川浸水や津波浸水などの災害に対する不安のあるエリアには、多くの市民が生活しており、命と暮らしを「守る」対策が必要です。

■人口の将来予測



出典：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所

## このままの状態が続くと…

商業や住宅等の郊外化が進むと、道路や上下水道のインフラ、公共交通の維持整備等の負担が増え、財政を圧迫してしまうほか、買い物や病院に行くにも、あちこち移動することになり、移動距離も長くなることから、車のない方にとって、不便なまちなってしまいます。

また、人口減少・少子高齢が進むと、病院や商業サービス、公共交通、保育園、学校その他公共施設などの利用者が減ることから、これらの施設の運営も難しくなり、撤退してしまうおそれがあります。こうなると、ますます人が流出していくことにもつながります。さらに、人口減少は、地域の風習・文化の継承にも影響します。

さぬき市を※「守る」つなぐ進化するには  
人口や生活施設が集積した住み続けられる  
まちづくりが大事です

※市総合戦略に掲げる基本理念